

肝臓病教室の立ち上げと 運営のノウハウ

大阪市立大学大学院医学研究科
肝胆膵病態内科学
小林佐和子、河田則文

病院の概要

診療科 33診療科 病床数 992床

- 特定機能病院、地域災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院
- 肝疾患診療連携拠点病院に指定：平成20年7月
- 肝疾患相談支援センター（医療相談）
 - ・医療ソーシャルワーカー5名 ・看護師2名
 - ・精神保健福祉士2名 ・事務員2名 ・窓口担当



公立大学法人 大阪市立大学
大阪市立大学医学部附属病院
Osaka City University Hospital



医学部建学の精神 : 智仁勇

「智」: 知恵を育む知識や技術の習得

「仁」: 人の持つ痛みや悩みを深く理解する慈愛の心

「勇」: 正しい判断に基づく決断力

従来の肝臓病教室

- 1983年頃から1999年頃まで
- 医師と栄養士
- 対象：外来通院患者と入院患者
- 内容：肝臓病全般
食事指導
- スライドとプリントを作って、当番の担当医が変わっても統一した話ができるように工夫
- 肝臓病教室が中断してしまった理由
 - 会のマンネリ化
 - 出席する患者がいなくなった
 - 主催者側のモチベーションの低下



初代 山本祐夫教授
患者教育に熱心であった

おおさか肝疾患チーム医療フォーラム ～医療従事者向け研修会～

謹啓

時下、皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、肝疾患診療連携拠点病院では、医療連携と情報共有を目的として、医療従事者（看護師、薬剤師、管理栄養士、技師、保健師）がご参加いただける研修会を企画いたしました。皆様方におかれましては、ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

- 日時 : 2011年 2月12日(土) 13:30～17:30
- 場所 : 大阪市立大学医学部 4F 『大講義室』 (裏面地図参照)

PROGRAM

【SessionⅢ】肝疾患診療におけるコメディカルミッション

「 チーム力から生まれた『肝臓病教室』 」

大阪市立大学医学部附属病院 10東病棟 主任 松崎 里美 先生

「 当院における肝臓病教室の現状 」

(財)住友病院 管理栄養士 西園 郁子 先生

「 患者への情報提供の在り方 ～ 肝臓病情報誌「ひまわり」を通して学んだこと ～ 」

大阪府立成人病センター 看護師 山口 敦子 先生

「 当院の肝臓病教室－講義型から患者参加型へー 」

大阪厚生年金病院 薬剤師 児玉 愛 先生

「 地域連携パスの充実につながる『私の療養手帳』 」

大阪市立大学医学部附属病院 10東病棟 副主任 今崎 由起子 先生

肝臓病教室の立ち上げ

肝臓病教室立ち上げに向けて

- H20年7月、当病院が「肝疾患診療連携拠点病院」に指定されたことで、より患者サービスの向上に向けて取り組みたい。
- 当院に入院および通院している患者に対して、肝疾患に対する正しい知識を広め、患者のQOLの向上に向けて支援したい。

特色ある肝臓病教室を目指して

1. どのような方法で始めるのか？
 - ・参加職種
 - ・人数
 - ・開催日時、開催頻度
2. 患者が参加したい肝臓病教室とは？
3. 医療者側の達成感を得るためには？また、メリットはあるか？



他施設の肝臓病教室の見学、情報収集

開始に向けた具体的な活動

1. 他部門の責任者および各診療科の了解を得る
2. コーディネーター：病棟師長
 - ・他部門との連絡・調整
 - ・役割分担の決定
 - ・会場の確保と準備、レジメ作成、司会進行
 - ・ポスターの掲示
 - ・ボランティアへの駐車料金免除へのお願い
3. 患者への呼びかけ
 - ・診察時に医師がパンフレットを渡す
4. 担当者
 - ・資料作成、議事録作成、アンケート作成

年間計画(テーマ)

- 1) 慢性肝炎について
- 2) 肝硬変について
- 3) 肝臓癌について
- 4) 非アルコール性脂肪肝(NASH)について

教室開催に向けての打ち合わせ

参加者：医師、看護師、薬剤師、栄養士

1. 参加者の具体的な役割分担
2. 時間配分の確認
3. 内容の確認
4. 発表者の順番の確認
5. アンケート内容
6. 評価の方法

第1回 肝臓病教室

テーマ：C型慢性肝炎

平成21年3月27日（金） 午後5時～6時

インターフェロン(IFN)治療の最前線(医師)

インターフェロンとうまく付き合っていこう(看護師)

インターフェロンの種類と注意点

—副作用への対応について— (薬剤師)

食欲不振時の対応(管理栄養士)

肝臓病教室が始まるまで

- H20年
- 7月：肝疾患診療連携拠点病院
 - 9月：肝臓病教室立ち上げの具体的な動機
 - 12月：病棟主任に相談
コメディカルへの呼びかけ
- H21年
- 1月17日：他施設の見学、教授からの勧め
 - 1月末：年間計画立案、開催場所の確保
肝臓病教室開催許可
 - 2月10日：第1回打ち合わせ
 - 16日：ポスター掲示
 - 3月13日：リハーサル
 - 27日：第1回肝臓病教室開催

肝臓病教室の運営および内容

当院での肝臓病教室

3、6、9、12月の第3もしくは第4金曜日（年4回）

15時～17時

対象：当科通院もしくは入院患者

参加費：無料

事前申し込み：要

定員：なし

質問：事前に受け付ける

スタッフ：

医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士

MSW、学生、音楽療法士

スケジュール

- 1月頃 1年間の予定作成および場所の確保
年間スケジュールのポスター作製、掲示
- 2～3か月前 内容の打ち合わせ
ポスター作製、掲示
申し込みおよび質問の受付開始
- 2週間前 リハーサル
- 1週間前 配布資料およびアンケートの印刷
- 当日
- 1か月以内 アンケート集計および反省会
HPへの掲載

司会進行; 看護師



医師



栄養士



薬剤師



理学療法士



音楽療法士



継続していくために

患者さんのニーズの把握
スタッフのモチベーションの維持

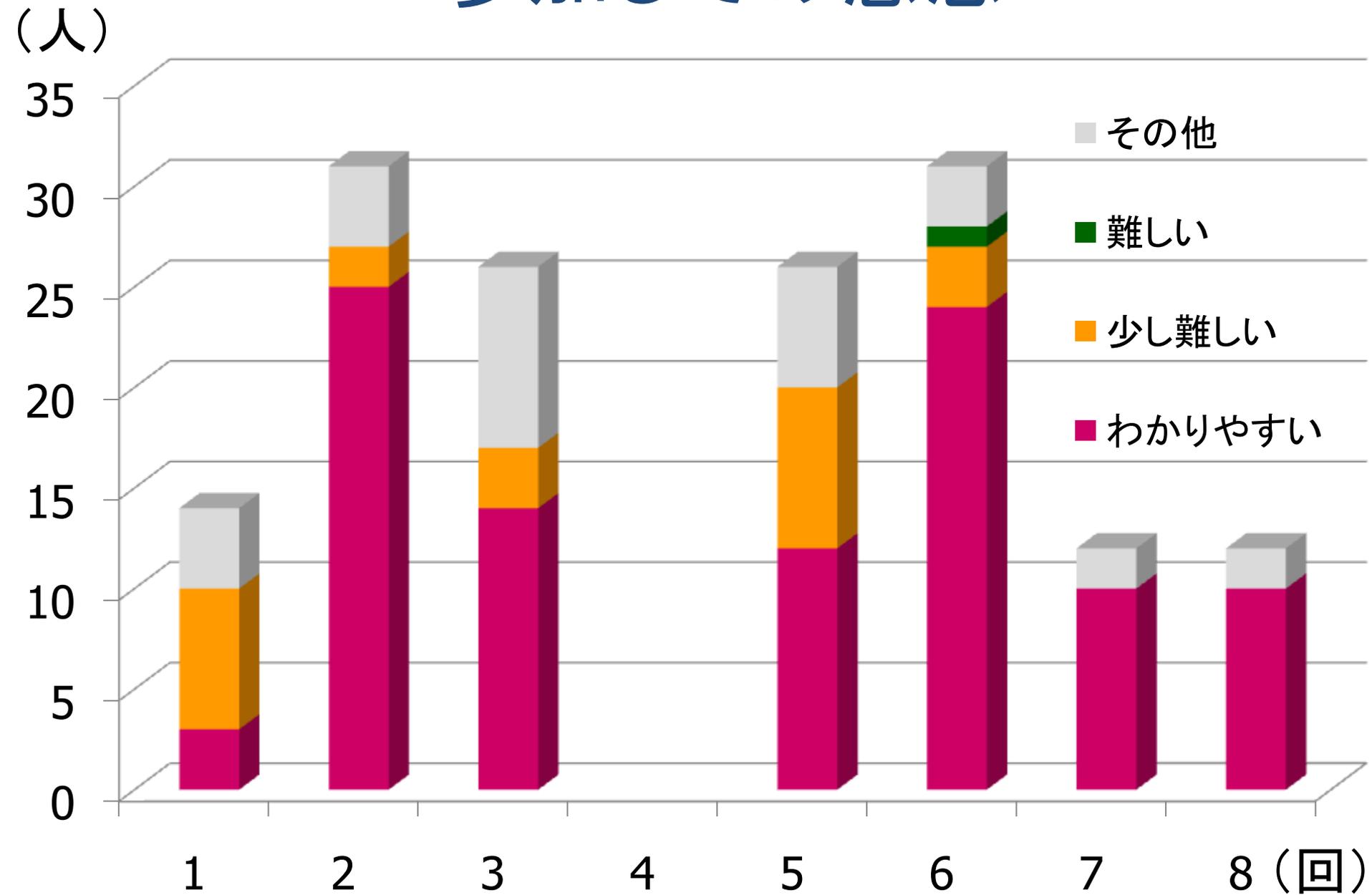
アンケート

1. 参加者の人数、性別
2. 肝臓病教室に参加したことがあるか
3. 参加しての感想
4. 時間について
5. 次回も参加したいと思ったか
6. 今後取り入れてほしい内容、その他

参加人数

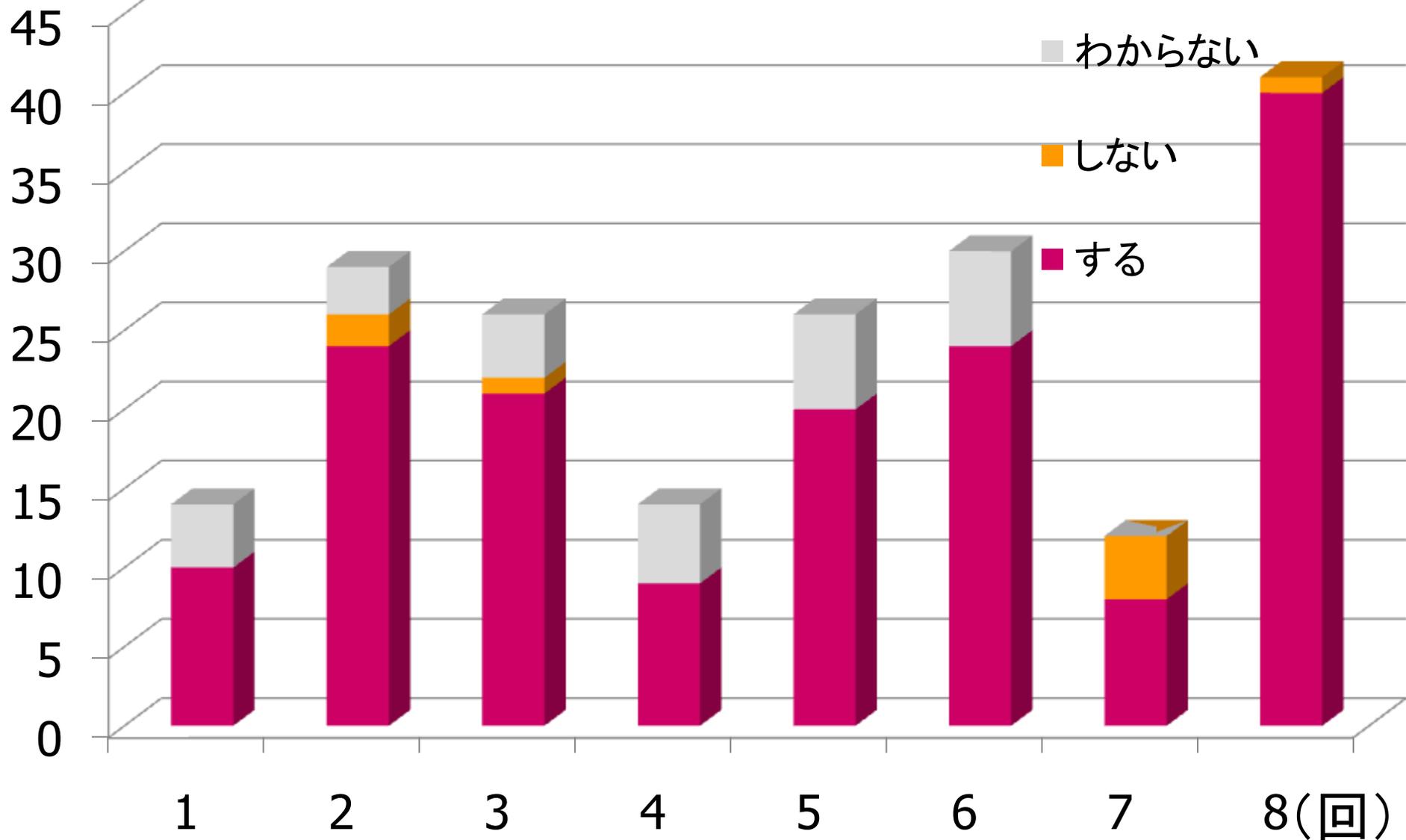
	テーマ	時間	参加人数
第1回	慢性C型肝炎	1時間	14
第2回	肝硬変	2時間	30
第3回	肝癌	1時間半	29
第4回	NASH	1時間半	15
第5回	慢性肝炎	1時間半	35
第6回	肝硬変	1時間半	31
第7回	肝癌	1時間半	18
第8回	NASH	1時間半	53

参加しての感想



次回も参加したいと思ったか？

(人)



肝臓病教室をきっかけに 出来上がったもの

- IFN手帳 地域連携パス
- NASH手帳



スタッフへのアンケート

▪ 患者さんへの教育

患者さんや家族の病気に対する理解が向上した。

治療や検査の内容についての理解が向上した。

患者さんの生活習慣の改善の取り組みが前向きになってきている。栄養指導をすすめるやすくなった。

患者さんからの信頼感が増した。

▪ 準備に時間がとられる

▪ チーム医療において、お互いの意思疎通の場となり、医療スタッフの横のつながりを深める。

▪ 若いスタッフにとっては、勉強の場になる。

今後の課題

- 患者の背景は様々であり、患者の理解度を考えた内容や用語の選択が必要である。
- 質疑応答の時間が十分取れないなどの問題がある。
- 患者の自主的な参加の拡大のためには、アナウンスの方法も含めて、工夫が必要である。また、参加できない患者にも内容を伝える方法を考える。
- 一部のスタッフに負担がかかりすぎないように、役割分担を見直していく必要がある。
- スタッフのモチベーションを維持していくために何をすべきか、今後も検討していく必要がある。